

会 議 事 録

1 会議名	令和6年度 第1回長岡市環境審議会
2 開催日時	令和6年8月28日（水曜日） 午前10時00分から午前11時30分まで
3 開催場所	寿クリーンセンター2階 会議室
4 出席者名	<p>（委員） 中村会長 大原副会長 吉津委員 米山委員 佐山委員 近藤委員 藤田委員 鈴木委員 向後委員 平澤（道）委員</p> <p>（オブザーバー） 岩浪氏</p> <p>（事務局） 佐山環境部長 里村環境政策課長 平澤環境施設課長 安達環境業務課長 木村環境政策課長補佐 角屋エネルギー政策室長 安達環境政策課係長 南エネルギー政策担当係長 栗原環境政策課係長 中野環境政策課主事 長井環境政策課主事</p>
5 欠席者名	<p>（委員） 勝身委員 三井田委員 粉川委員 山口委員 平澤委員</p> <p>（オブザーバー） 小池氏</p>
6 議題	令和6年版 環境に関する年次報告書（案）について
7 審議結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議題について審議会での議論を反映し作成することを承認した。

8 審議の内容	
事務局・環境政策 課長補佐	<p>定刻前ではございますが、本日出席予定の方がおそろいになりましたので、ただいまから第1回長岡市環境審議会を開催させていただきます。なお、本日もご出席いただいております委員の皆様は、資料No.1の委員名簿のとおりでございます。お手元の次第に沿って進行させていただきます。</p> <p>次第の2、環境部長よりごあいさつ申し上げます。</p>
環境部長	(あいさつ)
事務局・環境政策 課長補佐	ここからの進行につきましては会長よりお願いいたします。
会長	<p>本日は、「次第3 議事、令和6年度版環境に関する年次報告書(案)」と「次第4 その他」で、委員の皆様から広く環境に関して日頃大事だと考えていることなどがあればお聞かせいただきたいと考えています。「令和6年度版環境に関する年次報告書(案)」について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	(資料により説明)
会長	事務局からの説明について、ご意見などがあればお願いします。
委員	<p>2ページですが、まず感想ですが日本全国で2030年までに46%のCO₂を削減しようといみんなで頑張っていて、長岡市でも頑張っているわけですが、お話を聞いてよくわかりました。2021年の統計で21.9%まで減少したということで、46%のうち21.9%のところまで来た、あと実際残っているのが6年ぐらいでしょうか。数字でいくと2021年からですからあと9年ということになるかもしれませんけれども、あと24%ぐらいでしょうか。2030年までに頑張れば良いとということで、もうちょっとスピードアップしないと、今までよりも頑張らなきゃいけないかなというのが数字としてわかって大変良かったと思っております。もう少し具体的に何をしたらここまで減った、これからどうするのかということがわかるようにするために伺いたいんですけども、2ページの下の方に、省エネ・再エネ・地域資源循環を進めていくと書かれているわけですが、この3つに分けたときに全体で21.9%減ったのはわかるんですけども、例えば今年、省エネ・再エネ・地</p>

事務局・環境政策 課長	<p>域資源循環でどれぐらい減らすことができたのかということをお教えいただきたいなと思いました。</p> <p>今ほどのCO₂削減量ですが、環境省が発表している電力係数、ガス係数などで計算していきますので、この省エネの取り組みによってどれだけ減ったというのが正直わからないのが実態です。長岡市の全部の事業所が使っている電気量を東北エリアの電力係数で計算していく形になりますので、どれだけ省エネの取組でCO₂が減ったというところまではわからないということが今の状況でございます。</p>
委員	<p>年次報告書はチャレンジ戦略 2050 や地球温暖化対策実行計画とか、全部の進捗を報告することも兼ねるといふご説明があったと思います。チャレンジ戦略 2050 の 25 ページですけれども、省エネで 12.2%削減する、再エネで 2.8%削減する、地域資源循環で 6.7%削減するというシナリオをパーセンテージで示しているわけですね。そうすると今年も報告書でこの目標が一体どこまでパーセンテージを減らして、シナリオが進んだのかというものを示していただかないと私たちはここまで来たんだ、もっと頑張ろうとか、これができなかったのはどうしてかとかなどを考える根拠を数字で示していただきたいなと思います。</p>
事務局・環境政策 課長	<p>ご意見は承りました。どういう形で示すことができるのかは研究しなければならないのですけれども、CO₂の計算がどの程度わかりやすく表示できるのかというのは研究させていただきたいと思います。</p>
委員	<p>市民の方々にも、私たち環境審議委員にもそこは教えていただかないと。チャレンジ戦略 2050 では 2030 年までには何%減らしましょうというシナリオが出ているわけですから、2030 年まで 7 年でしょうか。その 7 年間で省エネで何%、再エネで何%、地域資源でというシナリオが作られたわけなので、それを実現するために今年は何%か。2030 年にどうやって数字を出されるのでしょうか。この数字はどう計算されて 1 年ごとにその数字の結果を出すのが難しい、わからないというお話だったかと思いますが、もう少しご説明いただかないとわかりません。</p>
事務局・環境政策	<p>年次報告書の内容から外れてきているようなので、ごく簡単にご説</p>

課長	<p>明させていただきます。去年のカーボンニュートラルチャレンジ戦略 2050 の中で国・県の方で示している現在の省エネ家電とか電力の省エネ対策などにより温室効果ガスが削減していく傾向が続くという趨勢値 BAU による削減量が 24%、これをまず国・県の数値から推計で当てはめております。同じように国・県の省エネ対策、経済産業省が示している部門別の省エネ対策で例えば高効率空調の導入、産業ヒートポンプの導入、住宅の省エネ化で CO₂がどれだけ減らせるかという指標が出ておりますのでこれを長岡市に当てはめると、12.2%ぐらい減るだろうと推計しております。その後、再エネ導入の取り組みも県の取り組みとあわせまして、推計値で 2.8%削減できるだろうと、46%削減するためには地域資源の循環により残りの部分を削減しなければいけないという形となっています。なので、この事業でこれだけ CO₂が減るという積み上げ方式ではなくて、国・県の計画で進めている 46%達成させるためには、最大でこの部門でこれだけ頑張らなければならないと逆算して組み立てているとご理解いただければと思います。</p>
委員	<p>私がこれにこだわっているのは、再エネ・省エネ・地域資源循環でプロジェクトを立ち上げてやっているわけですが、これをどういうふうに評価するのか。その数値がないととても難しいと思います。こういう取り組みをもっと進めた方が良い、これはなかなかできないものなのかとか、努力するためには、数値的に判断していかないといけない、その数値はどこにあるのかということのを伺いたくて質問をしております。今、課長から年次報告書とちょっとかけ離れてる話じゃないかというお話があったかもしれませんが、この年次報告書はチャレンジ戦略 2050 の進捗も含めると書かれていますのでこの話はして良いのではないかと考えております。その中で色々な計算が難しいということですが、可能な限り努力していただいて、省エネで目標にしたものがなかなか進んでいないとか、再エネで目標にしたものはかなり進んだとか、そういう評価ができるものを与えていただきたいなと思っております。</p>
事務局・環境政策課長	<p>私がお説明させていただいた年次報告書と外れてるといふところの部分は 1 ページの評価指標の実績の数値をご覧いただけるとわかるんですが、最新の数値が 2021 年度の温室効果ガスのものしか出てこないのです。昨年度策定したカーボンニュートラルチャレンジ戦略がどれぐらい影響してくるかというのは 3 年遅れで CO₂量に換算されてきま</p>

委員	<p>すので、一生懸命取り組みますけれども、これをやったから数字が変わったというのは3年先の話で、政策とどうしてもタイムラグが発生し、政策に省エネ対策の効果があるなどかの分析はなかなかしづらいというのが現在の状況です。補助金制度も立ち上げましたけれど、応募してくる事業所数とか市民からの応募が少なければ、政策判断をせざるを得ないというのが今の状況でございます。</p> <p>色々研究したり討議したり時間があれば良いですけども、2030年もう目の前でこれだけ災害が起こっておりますし、この政策でCO₂をこれだけ減らせるだろうという数値が出るわけですよ。できるだけ今私たちがやってることが進んでいるんだ、正確な数値は3年遅れになるかもしれませんが、今の努力はこれだけの可能性を生むはずだということで、そこがわかるように教えていただければありがたいと思います。報告書には現実的に反映されないかもしれませんが、この環境審議会では、それぞれの政策がどれぐらいの可能性を持っていて、どうもこれはうまくいっていない、うまくいっているみたいな状況が少しずつでもわかると良いですし、今度、環境省から11億円をいただいて、色々な政策をされるわけですけども、その時々々の成果、評価みたいなものもわかる範囲で教えていただけるとありがたいと思います。</p>
会長	<p>色々な政策のシナリオがある中で、それを全体的なものとしてしっかり伝えていくということで良いでしょうか。数字というのはなかなか難しい部分はあると思いますけど、色々な策に対しての整合性を持って発信していくというような形で進めさせていただければなと思います。</p>
副会長	<p>一つの狙いとして3ページに雪国対応の太陽光発電の実証実験をやりましたとあるのですが、文章の最後に検証しましたとあります。先ほど説明いただきましたけども、検証しましたと書いてしまうと検証結果はどうだったのか、検証・評価できるほどの検証ができたのかどうかということをお聞きしたいのが一つと、まだ途中段階だということであれば、これは検証したという表現じゃなくて、今、検証実験の最中であるという表現の方が良いのではないかなと思いました。もう一つお願いしたいのはこの年度表記ですが、平成から令和に変わって和暦だと連続性がないので西暦で書いてもらわないと何年前とか、</p>

<p>事務局・環境政策課長</p>	<p>何年経ってるとか年数がわかりにくいので、西暦表記が良いのではないかなという気がしました。</p> <p>雪国対応の太陽光発電実証実験ですが、1月・2月に設置されたところも施設によってありますのでご指摘の通り検証しましたというよりは始まったというところが正しいかもしれません。ただ雪国に適応できるような設置方法、ノウハウは実験の中でわかりましたので、そういう部分では完璧に検証しましたではないので、表記の仕方を見直したいと思います。ご指摘のありました西暦での表記、和暦と西暦がバラバラの部分がありますので、両方明記するような形で対応したいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>委員の皆様から貴重な意見が出ましたので、これらについて事務局から反映するべきところは修正し、報告書を作成させていただくということで皆さんご承認いただけますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは皆様から承認をいただきましたので、「次第4 その他」に移ります。皆様からは広く環境に関して、日頃大事だと考えていることなどがあればお聞かせいただきたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>5月に記者発表があつて、環境省から太陽光の設置に関する事業に採用され、11億円の交付金をもらったということで本当に良かったなと思っております。再エネ導入促進プロジェクトでと一般住宅に965件を目標に補助していくことはとてもいいことだと思います。その数がもう少し増えると良いなと先ほど応募が少ないと環境部長からお話があつてそれはどうしてかなと思ったりしたのですが、チャレンジ戦略2050の中に2030年までに長岡市でどれだけのご家庭にパネル設置を増やすのかという目標が9,700件です。今回補助金をいただけるのは令和10年までなので2028年になるかと思います。2028年までに965件で良いのかな。その2年後の2030年には9,700件という目標が待っている。今、一体どれぐらいまで設置されていますか。2020年まで1,300件ぐらいだったと思うのですがけれども、2024年の今、2,000件ぐらいになりましたか。2030年に9,700件という目標との整合性みたいなものはどうなっているのかなというのを教えてください。</p>
<p>事務局・環境政策課長</p>	<p>今は売電件数でしかわからないので、各家庭に太陽光パネルがどれだけ載っているかという正確な数字は持ち合わせていないというのが</p>

	<p>お答えになります。チャレンジ戦略 2050 策定時の 1,379 件という数字は、当時の売電に基づく件数になります。まだ 2,000 件までいってなかったと記憶しておりますが、正確な数字を持ち合わせていません。</p>
委員	<p>今 2000 件で 2030 年には 9700 件。売電の数字でしかわからないというので、それでも良いかなと思うのですけれどももうちょっと件数を増やしても良いのかと思いました。その 9,700 件という目標と整合性、どうして 965 件になさったのか教えてください。</p>
事務局・環境政策課長	<p>昨年度に環境省の脱炭素社会に移行するための交付金事業に応募させていただきました。5 年間 12 億円で、採択された自治体の内容とか、太陽光パネルの導入は最大でこれぐらい、これだけの補助金が活用できると推計をし応募をさせていただいております。国の交付金を最大限活用するために合わせて作っておりますので今ほどご質問いただきましたチャレンジ戦略の目標値との整合性はございません。環境省からも言われてますが、これは太陽光発電が普及するための呼び水であって太陽光発電を入れる人々全員に配るものではないことをご理解いただければと思います。</p>
委員	<p>チャレンジ戦略 2050 の過程に 9,700 件設置の目標を達成する、それから事業所もある、それから省エネもある、それ全部を含めて 46%を達成しようということでチャレンジ戦略 2050 があると思うのです。だから私は 9,700 件を目指して色々な政策をしてもらいたいなど、市民の方たちが自分の家に太陽光を載せる、自分も脱炭素に参加しているということで、これは大きなことだろうと思って、とても期待している施策です。それが実現しなければ 46%はいかないという中での計画だと思うのです。そういう施策を実現するにはやはり補助金というアプローチが必要だと思っていました。環境省から 11 億円いただけるというので良かったと思って見ていたのですけれども、チャレンジ戦略と整合性はないのだ、環境省の補助金は呼び水でチャレンジ戦略は別というお話だったかと思うのですけれども、チャレンジ戦略の 9,700 件を実現するには、これからどうなさいますか。</p>
事務局・環境政策課長	<p>チャレンジ戦略を実現させるための手段として環境省の交付金制度を活用させていただいてるので、別ということではなくて一つの手法、数ある手法のうちの一つだというふうにご理解ください。環境省から</p>

<p>委員</p>	<p>もこの制度をきっかけに長岡地域で雪国対応の太陽光パネルが普及していくように取り組んでくださいと。環境と経済の好循環を実現させてくださいというところが評価されまして、まず市内の太陽光パネルの設置などに従事される事業者を育てながら、この長岡市でも太陽光パネルを普及させるというふうに組み立てております。太陽光パネルの導入件数を目標値としては 9,700 件としているわけですが、これが少しでも進むように、色々な場面を使って情報発信をしたり、太陽光パネルの活用を新潟県と一緒にやっていくということになります。これとこれをやっていくところまではありませんが、今あるのは、環境省の交付金をうまく使いながら、それを推進していくということから始めたいと考えております。</p> <p>長くなって悪いのですけれども、この大事な 11 億円の使い道というのはとても注目しております。それで、9,700 件のところ、色々な施策を考えていただきたいと思います。965 件をもっと増やすというのも一つの手かなと思っております。それで意見として述べさせていただきます。965 件ではなくて 2,000 件とかでも良いのではないかと私は思っております。もう一つ伺いたいんですけれども、この同じ 11 億円の使い道ということで事業者を育てるというお話がありました。PPA 事業をする事業者を育てるということだと思っておりますけれども、PPA 事業に取り組む事業者支援というので、7 件という数字が出ております。11 億円の配分でいきますと、PPA 事業者に 3 億円から 4 億円、お金が配分されるのではないかなと思います。半額を補助してくださることなので 1 件につき 5・6,000 万円の事業を補助してくれることになると思うのです。3・4 億円を 7 で割ると、5・6,000 万、2 分の 1 の補助ですので、一件につき事業規模が 1 億円を超えと思います。それは大きすぎだと思います。私も調べまして、例えば鳥取市では公民館の PPA 事業をしています。ごくどこにでもある公民館です。9 件つけるのだそうです。一つの公民館につき、およそ 5・600 万円です。それでも PPA 事業が成り立っています。何で長岡だけ 1 件につき 1 億円という規模の事業にするのだろうか。それが今、最大の疑問です。可能性がどこにあるかまた調べてらっしゃると思いますけれども、この公民館はもうすぐ建て替えだから駄目だとか、南向きではないとか、あるかもしれません。でも小さな公民館でも鳥取市のようにそれから学校とか 1 億円もしなくても事業を進める PPA 業者を育てていく方が良いのではないかと思ったのですけれども、なぜ 7 件なのか教えていただきたいです。</p>
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>会長</p>	<p>この件に関してですが、数字的な一方的な理解だとか鳥取市の数字の話であるとか、こちらとしてもそこら辺を理解していないので、メールや次回の会議等の中でお答えするような形でよろしいですか。ここで何か言って間違いがあったりすると問題がありますのでそういう形でよろしいですか。</p>
<p>委員</p>	<p>報告書を見させていただきまして、その記載もあったのですが、昨年10月に天然ガスセミナーで長岡市と共同で開催させていただきましてありがとうございました。地産地消の天然ガスのPR、エネルギーそのもののカーボンニュートラル化などを情報発信させていただきましたが、来場者の方に理解を深めていただいたのかなと思っております。またこういった機会があればうちといたしましても、しっかり連携してPRさせてもらえればなと思います。当社としても引き続き地域のエネルギーとそれを活用した高効率な器具の普及拡大を通じまして、脱炭素化、また市の環境政策に役立てていければなと思いますので今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
<p>委員</p>	<p>今回初めて参加させていただきまして、長岡市の環境審議会がこれほど幅の広い分野に携わっているということに少し驚きながらも、大変勉強になる会だと思っております。エネルギー関係につきましては、太陽光の導入ということでルール・説明があったわけですが、現在は導入がどんどん進んでおまして、既存の発電所からの電気を制御しなければならないというような状況にもあるわけですが、この太陽光のところをとってみると、いずれ劣化が進み、廃棄という問題が出てくるので、これまた環境に関する課題としては取り上げていくべき時期がいずれ訪れるだろうというふうに思っております。どのように廃棄処分をしていくのかということは、私もすごく興味があるところですが、いずれそういった施設ができていけば、視察などできたらいいなというふうに思っております。お尋ねしたいのは、現在エネルギーだとか環境だとかということに関わることにしましては、子供のときからの教育というものが重要だと思っております。学習指導要領に基づきまして、環境に関する時間というものがあると思うのですが、それがどの程度の時間が設けられているのか。学習指導要領なので他の自治体と差があるわけではないかもしれませんが、それが多いのか少ないのか、今後どうなる</p>

<p>事務局・環境政策課長</p>	<p>のかといったようなことが興味を持っているところでもあります。何かご答弁がございましたらお願いしたいと思います。</p> <p>学習指導要領に基づいて各学校で教育カリキュラムに含ませていただいておりますので、全国的に同じ水準だというふうに思います。私も環境政策課で学校から申し込みをいただいて、環境に関するエネルギーとか環境に関する授業をさせていただいております。小学校4年生5年生が多いとのですけれど、脱炭素社会に向けてどういったことが起きているか、気候変動による地球温暖化でどんなことが起きているかを授業の中でさせていただいております。その他、エネルギーではないのですが環境に親しんでもらうということで、生き物調査といった授業もあります。そのような場を通して子供たちにお伝えしている状況でございます。</p>
<p>委員</p>	<p>今後、環境に関する学習というものが増えていく傾向になっていくのか、それは2050年カーボンニュートラルを達成するためには色々な取り組みが必要になると思いますし、今の小学校の4・5年生だとするならば、おそらく2050年代目前には、本当に様々な取り組みの中心になる方々なのです。小学校の時にしっかりした教育を受けてることが何よりも重要だというのが先ほど申し上げたところでもあります。今後さらにそういった教育というものはもっと増やすべき項目、課題が増えてくるのではないかとも思っております。そのような認識で思っておりましたということをお伝えしたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私の方からは令和5年3月に長岡市、国から補助をいただきましてEVバスを2台導入させていただいているところです。EVバスのカラーリングですが、他の車両と違いまして、明らかにわかるようなカラーリングで運行させていただいているところです。EVバスということになりますと、環境保全ということで広告塔になりうる手段かなというふうに思っております。これを市民の方々から見ていただく、それが環境保全に繋がってくるのかなと思っております。また長岡市からの要請もございまして、造形大学様を通じて、私どものEVバスに保全ということを啓蒙するために、車外広告を掲載する形になっております。今年度事業ということで伺っておりますので私どもの方としても積極的に協力をさせていただければと思っておりますのでよろしくお願いたします。</p>

	<p>熱中症対策の中で涼み処という紹介がございましたが、バスもお待ちいただいている間は非常に暑いところではあるのですが、車内に入ってくださいますと、涼み処に変わるというふうには思っております。特にEVバスは運転手からも評価が高いのがエアコン、特に冷房につきましては効果がありまして、非常に涼しく運行できているようでございます。運賃がかかるところではあるのですが、ご利用をいただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>産業廃棄物の影響で、先ほど他の委員の方もおっしゃられてましたけども、太陽光パネルの処理についてですが、長岡市で処理できる業者がいらっしゃらないんですね。おそらく埋め立てしかできないと思うのですが、リサイクル業者を育てていくとか、リサイクルできない、昔のやつはできないとか色々種類があるようなのですが、お考えいただければなと思いました。あとうちの会社は古い車もいっぱいあって大気汚染の一助となってしまうところがあるところがあります。冬期間の除雪車に関しては、一番古くは40年前の車を未だに乗っています。今、新車を買えば非常に高額ですし、そもそもメーカーに頼んでも1年以上、車が来ないという状況がありますので、40年前の機械でも大事に乗っていくしかないなところがあるのですが、除雪業者から道路管理課にもお話をしているんですけども、そういう車の更新に関して色々とお考えをいただきたいなと思えます。それが空気を綺麗にする一助ともなろうかと思えますので、話の流れとしては違いかもかもしれませんが、様々な部分でまたお考えをいただければと思えます。</p>
委員	<p>私の立場としましてCO₂削減というよりも森林の吸収源の方も良いのかなという捉え方をしております。最近、林業が端的に言えば儲からない業種の最たるものでありまして、山主さんが山に出向かないという現状がもうずっと続いております。どうしたら森林吸収できる若い木を育てられるか、これが大きな問題でありまして、かなりの老木になっているという現状であります。これはいろんな要因があると思えますけれども、燃料革命であったり、あるいは住宅のハウスメーカーの台頭等がありまして、大工がいなくなり、地元の木を使っただけという人が珍しい状況になってる、これが大きな原因だと思っております。私どもも何とか協力できるものはしなければならないという意味で組合としてですね、できれば山の木の若返りを進めながら、</p>

	<p>吸収力の増を図るという意識のもとです、主伐再生林という取り組みをさせていただいております。これにつきましては、とにかく山主さんをお願いをしながらですね、長岡市の協力で補助金をつけていただいて、山の木を切って、とにかく植えて若い木を育てるという方向で今進めてるというのがあります。これも人的な問題もありますので、極端に大きな面積をやるということはできません。今までただ切って植えなかった部分をできるだけ植えろということでもありますので、せいぜい八町歩ぐらいが限度であります。今後このくらいにすればしっかりした吸収源の山が出来上がるということを期待しながらやっていると現状でございます。この木1本植えたからどのくらいCO₂が削減・吸収できるんだという、国の計算等もあるんですけども、その植える木によってもある程度違いますので、しっかりとした数字は出せませんが、協力できるものはということと、今も話をずっと聞いておりましたけれども、いかにですね皆様がこのCO₂削減に興味を持っていただくか、これが大きな問題だろうと思います。そういう中で先ほど数字がないと取り組みが難しいというお話もございました。そうは言いながらもこのCO₂の数字を出すというのは非常に難しい問題だろうと思っておりますので、そこら辺はどういう形で皆さんに、このCO₂削減について協力していただけるか、その認識をどうするのかというのが大きな課題かなと思っておりますので、広報をしっかりとやっていただきたいと思っております。</p> <p>委員</p> <p>今ほどの皆様の色々な意見も踏まえた中で思ってるのは、学校教育の環境教育の具体的なやり方を1回見直す時期ではないのかなと感じております。学校の先生方、おそらく小学校の4・5年生が中心になってくると思うのですが、その先生がリアルに環境に対する教育という子供たちがストンと感じられるような教え方ができていらない方が多いなという気がするんです。一つの例として先進的に素晴らしい学校もいっぱい市内にあります。例えば川崎小学校は校長、教員それから地域の皆さん方、農業をやってらっしゃるとか家庭菜園をされてる方とかですね、そういった現場をやった方が先生になって教えている。そういう学校は素晴らしいですし、子供たちの吸収が早いんですね。そういった方向に舵を切っていくと、先生方に全てを任せるとするのは現実的には難しいと思いますので、地域の皆様から教育に力を貸していただく方を現場に組み込んでいただくことを考えていければいいのかなと思います。もう一つ、我々協会が中心的にアクシ</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

委員	<p> ヨンを起こしている長岡緑地環境協同組合というのがあります。 </p> <p> そことコラボして最近取り組んでいるのは、市内の公園それから緑地帯の維持管理から草刈りした草とかそういったものを一切外に出さないで有効な資源として有価物として取り組んでいこうということで組合を作ったわけですけども、今やってるのは樹木チップのコンポスト化、これは実証をやってまして、かなりいい成果が期待されそうです。もう一つは、法面の保護資材ということで、色々なコンクリートとか資材があるわけですが、そういったものと違って、樹木のチップを敷き詰めていき緑化を推進していくという取り組みが進んでおります。それと温度の上昇、高温で市内の街路樹もずいぶん被害を受けました。このままでは大変だということもありチップを緑地帯に還元していく。マルチング材として使った場合、その温度効果がどのぐらいあるのかという実証試験を昨年しました。大きな成果が出てますので、このエネルギーをいかに有効に使っていくかと再エネと省エネも含めて緑化という視点から進めていきたいと思っております。そんな取り組みをしてるといことも皆様からご理解をいただきたい思います。 </p> <p> 私、大学生の娘が1人いるんですが、普段接していて私とか夫に比べて娘の方が環境に対する興味関心であるとか、意識が高いなと思われる場面がよくあります。今ほど何人かの方もご指摘しておられました。普段から生活をしていて、小中学校を通じた子供たちへの環境教育がとても大事だと思っております。例えば娘のことですけれども、私が美味しいなと思ってよく買っているパスタがあるんですけども、その茹で時間は7分から9分で、家族もとても気に入ってます。県外で一人暮らしをしている娘は、自分でスーパーに行って買う時は、2・3分の早茹でタイプを買ってるのだそうです。家で食べているパスタをすごく美味しいと言ってるのにどうして違うのものを買うのかとか聞いてみたら、一人暮らしをしているキッチンの熱源がガスでその使用時間とか使用量を少しでも減らしたいからだという答えが返ってきました。私や夫が小中学校時代の頃は今の子供たちが受けているような環境教育を受けられなくて、今の子供たちは学校の授業とか行事を通じて、環境に対する意識が高められるような機会がたくさんあるおかげではないかなと感じています。一般的に考えて、私たちよりも子供たちの方が、この地球上でより長く生活していくことになるので、見せていただいた環境に関する年次報告書の42ページ施策②環境教育の推進のところにもいくつかの取り組みが書いてあり </p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>オブザーバー</p>	<p>ますが、今後も積極的に環境教育を継続していただけると個人的には嬉しいです。</p> <p>私はオブザーバーという立場がございしますが、県の環境関係の部署におります。そしてここは長岡市の審議会ということもありますので私の感想、考えとしてはそれぞれ事業者さんもいらっしゃる、市の方もいらっしゃる、我々、県もそれぞれの立場立場で、いろいろ環境規制の仕事もしていますけども、今回、特に話題に上がってる地球温暖化ですとか、環境保全、それについてそれぞれの立場でやることをやっていくというのが一番大事なんだろうなと思っております。</p> <p>事業者の皆様は自分たちの業務の中で、節約したり節電して省エネをしていく、あるいはそれに資するものを作っていく。その作る過程で、CO₂をいっぱい出したら元も子もないこともあるので、バランスを取りながらそして市民・県民については、どういう行動をしていくのか、どういう行動に変えていけばこういう効果があるはずだという辺りを普及啓発していく、それが自治体としては一番大きな地球温暖化とか環境対策についての必要な部分なのかなと思っております。先ほど事例としてリチウム電池が原因による発火でも、結局分別がいまいちなのでそうになってしまう。生ごみもしっかり水分を切る、そういうことをしていくと長岡市で取り組んでる生ゴミのガス化とか、そんなにエネルギーを使わないで良い塩梅にガスが出ていくのだろうなと私は思ってますし、市民それぞれ県民それぞれが自分の家庭の中でちょっとずつやっていくことの積み重ねが、それなりに効果を生むだろうなと。数字にするのは私は経験あるんですけどほぼ無理みたいなどころがありますので、そこは推計していった積み重ねの結果、統計的にもCO₂の削減に繋がったというのが、やがてわかるのではないかと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。時間も来ましたのでこれで終了したいと思います。今回目標値の事や、整合性、教育そういう話が多かったと思います。目標、目標値が大事ではなくて、やっぱりそのプロセスだと思います。そのプロセスが色々なプロジェクトや数字がある中で少しずつ上げていくことが大事になってくると思うのですよね。数字が大事ではなくて、そのプロセスがいかにこの先の子供たちであったり、世代に繋げていけるのかということのを大事にしていきたいなと思います。教育に関しては前々から僕も言っていたことでは</p>

事務局	<p>ど、その世代の子たちが社会に出たそのときに、何を感じるのか、その材料として僕らがちゃんとそこに置いておくものを用意し、引き継いで貰わなければならないのです。</p> <p>今回、熱中症のチラシについては、うちの視覚デザインの韓国の方がデザインしたのですが、彼女も長岡市の環境に対して興味を持って、こういうような誰でもわかりやすい伝えやすい子供たちにもわかるような、そういう思想・考え方で、細々とした表現が、今後の環境問題の大きな方策になっていくような気がします。これからの大学としてのプロジェクトとしては、越後交通さんから協力いただいて、学生がEVバスにラッピングを行います。多分10・11月ぐらいに皆様見られるのではないかなと思いますけど、EVバスもよく街の中に走っていますし、それに乗る、それを見るという子供たちというのも非常に多いと思うのです。そこで何を感じるかというのが大事で、それもやっぱり一つのプロセスなのです。そういうことも理解しながら、今後も審議をお願いしたいなと思っています。それでは進行を事務局にお返ししたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。それでは、以上をもちまして第1回長岡市環境審議会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。</p>
9 会議資料	別添のとおり